

医学系研究に関する情報の公開について

| | |
|------------------------|---|
| 研究機関名* | 独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院治療就労両立支援センター |
| 研究課題名* | 患者が利用してみようと思える両立支援 ～初期面談プロセスに関する質的研究～ |
| 所属科* | 大阪労災病院治療就労両立支援センター 両立支援部 |
| 研究責任者* | 本田優子 |
| 研究実施期間 | 開始 西暦 2022年 4月 1日 ~ 終了 西暦 2025年 3月 31日 (予定) |
| 対象疾患(予定症例数) | 症例 |
| 研究対象となる治療・ 手術・検査の時期 | 自 西暦 年 月 日 ~ 至 西暦 年 月 日 |
| 研究概要* | <p>目的：</p> <p>近年両立支援が推進されているが、全国の医療機関において十分な支援が展開される状況には至っていない。その理由として両立支援ニーズのある患者に出会う機会が少ないこと、そして両立支援ニーズのキャッチが困難であることを示す報告が複数ある。1)、2)、3)そこで、本研究では、患者が利用してみようと思える両立支援のあり方を初期面談プロセスに焦点を当てて明らかにしたい。なおこれは、両立支援の利用の促進を念頭においたものではあるが、真に両立支援が不要である患者に対して強引に支援を勧めることを意図していない。両立支援の現状として、その選択肢の情報が患者に十分に行き渡っていない状況があることから、支援ニーズの有無の吟味および支援の提示方法の工夫が必要であろうと考えている。本研究は、それらが提供されることにより、患者が自身の状況を踏まえた選択・決定ができるようになることを目指すものである。</p> <p>方法：</p> <p>研究方法としては質的研究方法を採用する。本研究は、面談場面という患者と支援者の相互作用をプロセスで捉える必要があることから、プロセスで起こる現象の詳細な記述やそこに影響するさまざまな事柄の相互作用の分析を特徴とする質的研究方法が適切と考えた。具体的には先駆的に両立支援を実施している労災病院群のMSWにインタビュー調査を行う。</p> |

別紙第2号様式

| | |
|------------------------------|--|
| | <p>患者が両立支援を利用してみようと思いついた事例について、初期面談場面を中心にインタビューし、質的分析の上、いかに患者のニーズをキャッチし、それをいかに両立支援に結び付けているかについてのプロセスを明らかにする。</p> |
| <p>倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*</p> | <p>個人情報の保護に関しては、質的研究の分析過程において徹底した匿名化・抽象化・概念化を行う。</p> |
| <p>研究の問い合わせ先*</p> | <p>大阪労災病院治療就労両立支援センター 本田優子 072-252-3561 (PHS:4273)</p> |

* 記入必須項目